

グローバル課題分野における国際協力
——国内・国際の紛争の防止と解決の観点から——

防衛研究所政策研究部
小塚 郁也

- ・2020年の各グローバル課題分野における国際協力をどう総括するか。

2020年最大のグローバル課題は、言うまでも無くCOVID-19パンデミックの世界的流行に対する各国および国際的な対処であった。イラン核開発問題や中国の覇権的行動と国内での人権侵害問題など、紛争の防止と解決に向けた国際協力はコロナ禍への優先対応の結果、余り進展が見られなかったと総括できる。特に米トランプ政権のパンデミックに対する初期対応が悪く、アメリカが世界最大のコロナ被害国となったことが紛争抑制へのリーダーシップの発動を大いに妨げたと考える。また、アメリカ第一主義で国際協調軽視のトランプ大統領の外交・安全保障方針が同盟国との軋轢を生み、イラン核合意の停滞に典型的に見られたように、紛争解決に向けた国際協力体制の構築を結果的に阻害したと言えるだろう。

- ・2021年に各グローバル課題分野における国際協力はどのように進むのか。

昨年11月に行われた米大統領選および上院議員選挙の結果、米民主党が大統領職と上下両院の多数派を確保するトリプルブルーの状況が生まれたため、バイデン米新大統領はコロナパンデミックへの対応や気候温暖化問題、そしてイラン核合意への復帰などの選挙公約を一応円滑に実施できる体制ができています。しかしながら、米国内ではトランプ支持者の暴動や反発が激化するなど、社会の分断は今なお大きい。また、民主党左派の行き過ぎた主張を新大統領が如何に抑えるかも不透明であり、米国は2021年もまず国内問題への対応に専念しなければならないと見ている。したがって、同盟国との関係改善やイランと北朝鮮の核・ミサイル開発問題への対応が遅れる恐れがある。特に中東情勢では、イスラエルとサウジアラビアが米新政権のイラン核合意復帰を妨害することが考えられ、また、昨年初めの軍事的対立以来、保守強硬派が勢力を拡大しているイラン国内の政治状況を考えれば、イランが簡単にアメリカに妥協して核合意遵守に復帰するとも考えにくい。したがって、2021年も紛争防止や解決の側面で顕著な国際協力の進展を安易に期待すべきではないだろう。

- ・2021年に優先して取り組むべきグローバル課題は何か。また国際協力を前進させるために必要な取り組みは何か。

2021年はまず優先的に国際協力によるワクチン接種を拡大し、なるべく早くコロナ禍を終息に向かわせるべきであろう。国内および国際紛争の抑制と解決に向けた努力の再構築は、さらに米国などで進む国内社会の分断をある程度和らげた後に取り組むべき第三の優先課題であると考えます。国際協力を前進させるための各国の取り組みも、まずこの順序で進めていくべきであると考えます。